

# The Challenge of Rebirth

## 1. 教育を考える一言

あらかじめ解決策が分かっていたことは一度もない。だが、ありがたいことに打開策を見つけられなかったことも一度もない。どんな問題でも、核心を見抜くことができれば解決できるという自信が植えつけられたからだろう。

## 2. 背景

私が”The Challenge of Rebirth”という言葉に吟味したのは大学の時代です。その頃、私は二つの学部所属し、外国語学部と情報科学学部という複数分野専攻制の下で勉強していました。そして、情報科学に関する授業の中で、政策決定や情報処理、問題解決などの講義を受けました。正直に言うと、授業の内容の理論的な部分は理解できなかったところもありますが、お世話になった先生方からの経験談や教訓は今でも私の中に息づいています。

特に印象に残った言葉は、”The Challenge of Rebirth”という名言です。どんな完璧な計画を立て任務を遂行するときでも、必ずしも問題がないとは限りません。したがって、一旦問題が発生した時にどう対処するか、これこそ経営者の腕の見せ所だということです。ここでは、問題の核心を見抜く能力が不可欠です。次に、問題に直面した際に、白紙の気持ちで問題解決に取り組むのが成功のカギとなります。言い換えれば、常に白紙状態で、直面した問題をさまざまな視点から検討・分析することが大事です。これこそ再生の第一歩なのです。最後に、チャレンジを忘れてはならないということです。なぜなら、挑戦の機会、危機意識を持続することができれば、モチベーションもあがり続けます。要するに、何事も情熱を持って取り組まなければ、核心に到達できないということなのです。この言葉は、私が学んだ大切な教訓のひとつになりました。

## 3. 考察

大学の三年生から、学校で TA( Teaching Assistant) と CA( Class Assistant) をした経験があります。その頃、大学生の英語能力を指導していましたが、知識の面や学習支援の面の中で、多くの問題に直面しました。その際に、先生から頂いた言葉が頭に浮かび、自分も当初の初心者の気持ちでやり直すべきだと決心しました。その結果、試行錯誤を重ねながら、なんとか問題解決の道を見つけることができました。問題の解決は言うまでもなく、自分自身もそのプロセスの中で、視野を広げ、全般的に検討・反省し、成長して行く。やはり先生がおっしゃった通り、「解のない問題がない」を実際に体験したからこそ、”The Challenge of Rebirth”という言葉の意味を実感できたのです。

### 参考文献

カルロス・ゴーン（中川治子訳）『ルネッサンスー再生への挑戦』ダイヤモンド社、2001年